

池野 清画「樹骨」頌

天 野 茂

三本の立枯れの樹を 画きたる 「樹骨」は寂し 色無しにして

蕭々と寂しき絵 「樹骨」 原爆の野に立枯るる 樹を画きたるか

原爆に枯れたる樹々か 蝕^{むしば}まる生の 歎きか 色無き画「樹骨」

蕭殺と虚無の画「樹骨」を画きつゝ 画人は逝きし 原爆症と知らず

焼酎に酔へば 森繁の 「枯れすゝき」唄ひしといふ 「樹骨」の画人は

長崎の銅座町珈琲館「南風」に 「樹骨」の画人を懐ふ 秋なり

画人逝き 華僑の女もまた^{ひと} 逝きし 珈琲館「南風」は 煉瓦の壁なり

哀しきは長崎の旅 珈琲館「南風」にして 逝きし人 恋ふ

(一九七三・一〇・一三)

(注) 清野清―色彩を拒否した画人、佐多稲子「樹影」の主人公。

「南風」―「樹影」の女主人公経営の珈琲館。デザインは池野清。